

推薦レポート

坂本清恵先生推薦

戦前の政治家における二字漢語の頭高型アクセントについて

小 出 真 由 奈

一 研究目的

専門家が標準的なものとは異なるアクセントを用いることが報告され、政治家についても頭高のアクセントが政治家アクセントといわれている。本レポートは、政治家の中でも戦前に焦点を当て、演説でのアクセントについて調査、考察することを目的としている。はじめに先行研究とそこから予想される研究結果を示し（第二章）、続いて研究方法を紹介する（第三章）。そして、そこからもたらされた研究結果を明らかにし（第四章）、最後に考察とまとめを行う（第五、六章）。

二 先行研究と予想される研究結果

この調査をするにあたって、参考にした先行研究は、塩田雄大氏による「NHK アクセント辞典」¹⁾、新辞典への大改訂⑥漢語のアクセントの現況と変化の「背景」を探る²⁾である。これによると、「政治」にかかわる人の発することばには、一般の人に比べて「頭高型」が多いということが、以前から指摘されている³⁾。「一般的には平板型で発音されること」の多い漢語が、政治にかかわる人からは特に頭高型で発音される傾

向とあった。この傾向が、戦前にもみられるのだろうか。上記の先行研究から、①「現在と異なる古いアクセントが表れる」、かつ②「政治家特有のアクセント（二字漢語の頭高型）もみられる可能性があり、その当時の辞書に書かれたアクセントとは違う型を示す」、という二つを予想として立て、これに沿って調査を進めていく。

三 研究方法

この研究において、次の二つの方法を用いる。一つ目は、「録音資料による調査」である。国立国会図書館デジタルコレクションにアップされている歴史的音源の中から、戦前までに活躍した、出生地（もしくは出身地）が首都圏の政治家に絞って音源の聞き取り調査を行う。なお、単語は聞いて気になった発音のものをピックアップする。調査した政治家としては、鳩山一郎、尾崎行雄、平沼騏一郎、近衛文麿、東條英機の五人である。なお、第四章にてそれぞれの人物の生年、出生地について、調査した単語、それを抽出した音源に関して記した。

二つ目は、「文献調査」である。前述の「録音資料による調査」においてピックアップした単語について、辞書を利用して当時のアクセント

と現在のアクセントの表記を調べる。辞書は戦前のものから最新のものと合わせて五冊調査した。神保格、常深千里の『国語発音アクセント辞典』（厚生閣、一九三三）、寺川喜四男、日下三好の『標準日本語発音大辞典』（大雅堂、一九四四）、日本放送協会編の『日本語アクセント辞典』（日本放送出版協会、一九五二）、NHK放送文化研究所編の『NHK日本語発音アクセント新辞典』（NHK出版、二〇一六）、山田忠雄、倉持保男、上野善道、山田明雄、井島正博、笹原宏之編の『新明解国語辞典 第八版』（三省堂、二〇二〇）である。なお、第四章から示す研究結果の表には、各辞書の出版年の西暦のみを記している。

四 研究結果

ここからは、政治家ごとに研究結果を示していく。表中の斜線の塗りつぶしは現在と異なる古いアクセントを、無地の塗りつぶしは辞書のアクセントとは違う頭高型のアクセントを示したものである。

これにより、録音資料から抽出した語彙は、鳩山一郎が「条約」、「主張」、「各国」の三単語、尾崎行雄が「国民」、「財閥」の二単語、平沼騏一郎が「政治」、「感激」、「政策」、「団結」の四単語、近衛文麿が「理解」、「協力」、「和平」、「時局」、「解放」、「平和」、「矛盾」、「機会」、「内閣」、「外国」、「転換」、「人的」、「日夜」、「全力」、「比類」の十五単語、東條英機が「協力」、「発展」、「陥落」、「外交」、「歴史」、「自信」、「希望」、「前進」、「公言」、「貢獻」、「崇高」、「当然」、「経過」、「突破」の十四単語である。人によって音源長さなどの量的な差があるため、調査できた単語数にもかなりばらつきがある。

(一) 鳩山一郎 (生年…一八八三年、出生地…東京都新宿区)

表一は、鳩山一郎と、調査した辞書のアクセントを示している。

表一 鳩山一郎と辞書のアクセント

	条約	主張	各国
鳩山一郎	1	1	0
1932	1	0	0
1944	1	0	1.0
1951	0	0	1.0
2016	0	0	1
2020	0	0	1

ているため、これも古いアクセントが出たと言える。

「条約」は、頭高型を示し、最新の辞書で平板型表記であるが、戦前の辞書では頭高型と記されており、政治家アクセントではなく古いアクセントが出たと考えられる。「主張」は、頭高型を示しており、どの辞書も平板型表記であるため、政治家特有のアクセントが出たと考えられる。

「各国」は、平板型を示していた。最新の辞書では頭高型と記されているが、一九五一年までの辞書では平板型も示され

【調査音源】

・『軍縮問題と国民の覚悟 (1)』(ビクター、商品番号5384、一九三六年一月) (「条約」、「主張」)
 ・『軍縮問題と国民の覚悟 (2)』(ビクター、商品番号5384、一九三六年一月) (「各国」)

(二) 尾崎行雄 (生年…一八五八年、出生地…神奈川県相模原市)

次頁の表二は、尾崎行雄と、調査した辞書のアクセントを示している。なお、「財閥」に関しては『国語発音アクセント辞典』、『標準日本語発音大辞典』でアクセントに関しての記載がなかったため、表は空欄になっている。

尾崎行雄は、「国民」と「財閥」の二つとも、頭高型を示した。どちらも平板型の単語であり、政治家特有のアクセントが出たと考えられる。

表三 平沼騏一郎と辞書のアクセント

	政治	感激	政策	団結
平沼騏一郎	1	1	1	1
1932	0	0	0	0
1944	0	0	0	0
1951	0	0	0	0
2016	0	0	0	0
2020	0	0	0	0

・『東亜新秩序の建設に集手(4)』(コロムビア、商品番号AK69、一九三九年三月)〔政治〕
 ・『演説：大命を拜して(下)』(コロムビア(戦前)、商品番号A1016、一九三九年三月)〔感激〕
 ・『演説：大命を拜して(下)』(コロムビア(戦前)、商品番号A1016、一九三九年三月)〔政治〕、〔団結〕

表二 尾崎行雄と辞書のアクセント

	国民	財閥
尾崎行雄	1	1
1932	0	
1944	0	
1951	0	0
2016	0	0
2020	0	0

【調査音源】
 ・『演説：普通選挙について(3)』(ニッポノホン、商品番号16814、一九二八年三月)〔国民〕
 ・『演説：普通選挙について(4)』(ニッポノホン、商品番号16814、一九二八年三月)〔財閥〕

(三) 平沼騏一郎(生年：一八六七年、出生地：岡山県津山市、一八七二年に上京)

表三は、平沼騏一郎と、調査した辞書のアクセントを示している。

平沼騏一郎は、「政治」、「感激」、「政策」、「団結」の四つの語で、頭高型を示した。これらはいずれも平板型の語であり、政治家特有のアクセントが出たと考えられる。

【調査音源】

表四 近衛文麿と辞書のアクセント比較

	理解	協力	和平	時局	解放
近衛文麿	0	1	2	1	3
1932	1	1		1	0
1944	1	1.0	1	1	0
1951	1.0	0.1	1	1	0
2016	1	0	1	0	0
2020	1	0	1	0	0
	平和	矛盾	機会	内閣	外国
近衛文麿	1	1	0	0	1
1932	1	0	2	0	0
1944	1.0	0	2	0	0
1951	0	0	2.0	1	0
2016	0	0	2	1	0
2020	0	0	2.1	1	0
	転換	人的	日夜	全力	比類
近衛文麿	1	1	0	1	1
1932	0		0	1	1
1944	0		0	1	1.0
1951	0	0	1	0	1
2016	0	0	1	0	0
2020	0	0	1	0	0

(四) 近衛文麿(生年：一八九一年、出生地：東京都千代田区)

左の表四は、近衛文麿と、調査した辞書のアクセントを示している。

なお、「和平」に関しては『国語発音アクセント辞典』で、「人的」に関しては『国語発音アクセント辞典』、『標準日本語発音大辞典』でアクセントの記載がなかったため、表では空欄になっている。

「矛盾」、「外国」、「転換」、「人的」の四つは、頭高型を示した。これらはいずれも平板型の語であり、政治家特有のアクセントが出たと考えられる。

「協力」、「時局」、「平和」、「全力」、「比類」の五つは、頭高型を示し、最新の辞書でいずれも平板型表記であるが、戦前(一部の単語は

一九五一年まで)の辞書では頭高型と記されており、政治家アクセントではなく古いアクセントが出たと考えられる。

「内閣」、「日夜」の二つは、平板型を示していた。最新の辞書では頭高型と記されているが、戦前の辞書では平板型表記であるため、これも古いアクセントが出たと言える。

「理解」、「和平」、「解放」、「機会」の四つは、頭高型でなく、辞書とも異なったアクセントを示していた。

【調査音源】

- ・『時局の新段階に書する政府の初心(中)』(コロムビア、AK-54、一九三八年一月)〔理解〕、〔協力〕
- ・『時局の新段階に書する政府の初心(下)』(コロムビア、AK-55、一九三八年一月)〔和平〕、〔時局〕
- ・『歓迎汪精衛かっか』(コロムビア(NHK)、AK-178B、年代の詳細な記載がないが、一九四〇年頃と推測される)〔解放〕
- ・『演説 重大事局に直面して(1)』(コロムビア、A-20060、一九四〇年九月)〔平和〕、〔矛盾〕
- ・『演説：大命を拝して(1)』(コロムビア(戦前)、A2004、一九四〇年九月)〔機会〕
- ・『演説：大命を拝して(2)』(コロムビア(戦前)、A2004、一九四〇年九月)〔内閣〕
- ・『演説：大命を拝して(3)』(コロムビア(戦前)、A2005、一九四〇年九月)〔外国〕
- ・『演説：大命を拝して(4)』(コロムビア(戦前)、A2005、一九四〇年九月)〔転換〕
- ・『演説：新東亜の建設と国民の覚悟(3)』(コロムビア(戦前)、

A1014、一九三八年十二月)〔人的〕

・『演説：時局に書する国民の覚悟(6)』(コロムビア(戦前)、A10003、一九三七年十月)〔日夜〕、〔全力〕

・『講演 新東亜の建設(1)』(昭和十三年明治説音相官邸より中継放送)〔ビクター、Z111、年代の詳細な記載がないが、一九三八年と推測される)〔比類〕

(五) 東條英機(生年：一八八四年、出生地：東京都千代田区)

左の表五は、東條英機と、調査した辞書のアクセントを示している。なお、「公言」に関しては『国語発音アクセント辞典』、『標準日本語発

表五 東條英機と辞書のアクセント比較

	協力	発展	陥落	外交	歴史
東條英機	1	4	1	3	1
1932	1	0	0	0	0
1944	1.0	0	0	0	0
1951	0.1	0	0	0	0
2016	0	0	0	0	0
2020	0	0	0	0	0
	自信	希望	前進	公言	貢献
東條英機	2	2	1	1	1
1932	0	0	0	0	0
1944	0	0	0	0	0
1951	0	0	0	0	0
2016	0	0	0	0	0
2020	0	0	0	0	0
	崇高	当然	経過	突破	
東條英機	1	1	1	1	1
1932		0	0	1.0	
1944	0	0	0	1	
1951	0	0	0	1.0	
2016	0	0	0	0	
2020	0	0	0	0.1	

音大辞典』、『日本語アクセント辞典』で、「崇高」に関しては『国語発音アクセント辞典』でアクセントの記載がなかったため、表では空欄になっている。

「陥落」、「歴史」、「前進」、「公言」、「貢献」、「崇高」、「当然」、「経過」の八つは、頭高型を示し、辞書はすべて平板型表記であるため、政治家特有のアクセントが出たと考えられる。

「協力」、「突破」の二つも、頭高型を示し、最新の辞書でも平板型表記であるが、一九五一年までの辞書には頭高型と記されているため、古いアクセントが出たと考えられる。

「発展」、「外交」、「自信」、「希望」の四つは、辞書でいずれも平板型と記されているが、音声では頭高型ではない異なったアクセントを示していた。

【調査音源】

- ・『国民政府成立に周年記念 日満はな交換放送における演説(一)』(コロムビア、AK-433' 一九四二年三月) (「協力」、「発展」)
- ・『国民政府成立に周年記念 日満はな交換放送における演説(下)』(コロムビア、AK-433' 一九四二年三月) (「陥落」、「外交」)
- ・『大命を拝して』(コロムビア、AK-195' 一九四一年十月) (「歴史」)
- ・『大東亜戦争に集まり年記念講演(2)』(ニッチク、AK951' 一九四三年十二月) (「自信」、「希望」、「前進」)
- ・『大東亜戦争に集年記念講演(4)』(ニッチク、AK952' 一九四三年十二月) (「公言」、「貢献」、「崇高」、「当然」)
- ・『大東亜戦争完遂 国民総力結集大演説界における講演(7)』(コロムビア、AK-457' 一九四二年七月) (「経過」)
- ・『大詔を拝し奉りて(一)』(コロムビア、AK-217' 一九四一年十二月)

(「突破」)

五 考察

以上の結果から、①の「現在と異なる古いアクセントが表れる」という予想のとおり、戦前の古いアクセントが出現した。古いアクセントは、辞書で見ると戦前と戦後で変化するものもあれば、一九五一年までは古く、最新は変わっているものもあるというようにはらつきがあった。

また、②の「政治家特有のアクセント(二字漢語の頭高型)も見られる可能性があり、その当時の辞書に書かれたアクセントとは違う型を示す」という予想も正しいという結果となった。一部表記がないものもあったが、基本的にどの語も、戦前から現在まで辞書では一貫して平板型で表記されているものが頭高型に発音されていた。先行研究どおりの結果が出たと言えるだろう。

さらに一部の語では、頭高型にならず、辞書にも記載のないアクセントが示されることがあった。例外もあるが、概ね三拍語では二拍目に、四拍語では三拍目に出現しており、名詞複合規則の後部一型にあたるものと言える。これは、田中伊式氏が、後部要素が三拍から四拍の場合に頭高、平板(または尾高)型の語に表れる特徴だと指摘しているが、今回二拍以下の単語でも発音されていた。当時は、後部要素の拍数に関わらず、後部一型が表れていた可能性が考えられる。しかし、全ての単語が該当するわけではなく、演説の中で言葉を強調したい部分で現れていたため、政治家による頭高型アクセントと似たような働きをしているのではないかと考察する。

六 まとめ

今回の調査で、戦前の演説における、政治家のアクセントの特徴が明らかになった。古い音源からでもわかるほど、はっきりとアクセントが出てくることから、当時から強調しようという意思や、感情の高ぶりが、そのまま話し方に表れていたと言えるだろう。戦前の時代に政治家アクセントというものがあつたと言われてはいないが、これらの調査から、政治家アクセントの始まりを見ることができないのではないだろうか。

今回は、各政治家からピックアップした単語を調査しただけであるが、今後は録音資料に出てくる全ての二字漢語を抜き出し、政治家ごとどの単語が強調したい語として現れるかの比較調査をしていきたい。また、近衛文磨と東條英機で共通して「協力」という単語が頭高型で現れたように、複数の政治家で現在と異なる古いアクセントや、頭高型が発現する語が存在するかどうかについても合わせて調査を行いたい。さらに、第五章で述べた後部一型の発現について、戦前の複数の政治家で見られたものの現在では言及されていない特徴のため、戦前以降の政治家でも見られるかどうか、調査を継続したいと考える。

【引用文献】

- (1) 塩田雄大「ZINアクセント辞典」新辞典、への大改訂⑥ 漢語のアクセントの現況と変化の「背景」を探る」『放送研究と調査』(第六六巻第一二号、二〇一六年二月)
- (2) 田中伊式「ZINアクセント辞典」新辞典、への大改訂⑦ 複合名詞の発音とアクセント」『新辞典』のねらいとアクセント規則」『放送研究と調査』(第六七巻第一号、二〇一七年一月)

【参考文献】

- ・国立国会図書館デジタルコレクション『歴史的音源』
<https://dl.ndl.go.jp/search/searchResult?categoryTypeNo=1&viewRestrict-edList=0%7C2%7C3&fulltext=&categoryGroupCode=C&categoryCode=90&filters=8%3A0%7C7%3A15&rows=> (最終閲覧日二〇二二年十月二日)
- ・芳賀綾『言論100年 日本人はこう話した』(三省堂、一九八五年)